

平成三十一年度 東京都立大泉桜高等学校入学式 校長式辞

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。また、御来賓の皆様には、御臨席を賜り、このように盛大な入学式を挙行できますことを厚く御礼申し上げます。保護者の皆様には、本日のお子様の御入学をさぞかし心待ちにされておられたことと思います。今、その晴れ姿を目の当たりにされ、お喜びもひとしおであろうかと拝察いたします。

先ほど、入学を許可いたしました、二百三十七名の生徒の皆さんを確かにお預かりいたしました。本校の教職員の持てる力を最大限に発揮し、指導に当たりますことをお約束いたします。

さて、新入生の皆さん。皆さんは今、この晴れの場にあつて、本校での新しい学校生活に、様々な期待をもち、胸をふくらませていることと思います。

本校は、平成十七年四月に東京都立大泉北高等学校と東京都立大泉学園高等学校が発展的に統合され、大泉北高等学校の敷地に開校しました。大泉学園高校からは『美術教育』と『福祉教育』を引き継ぎ、練馬区で初めての全日制普通科単位制高校として誕生し、十五年目を迎えます。

本校の教育目標には、「社会の変化に対応し、生涯にわたって学び続けることができる主体的な生徒を育成」とあります。すなわち『主体的な学び』ということです。これに続き、「豊かな情操や感性を身に付け、責任感と規範意識を持つ『社会に貢献』できる人物」になってもらいたいという強い思いが込められています。そして、一人ひとりが「自らの在り方、生き方を考え、将来への意欲や目的意識を持つ『自立』した社会人」となる。と結んでいます。

すなわち、『主体的な学び』、『社会貢献』、『自立』の三つが本校の教育目標のキーワードであるということです。

そして、この『自立』は、日々の学校生活の中で、一步一步なされていきます。本校では、日々の授業を何よりも大切にします。それぞれの教科で、基礎基本の定着を図るとともに、興味・関心を高める実践的な学習を進め、豊かな教養を育む授業の展開を行っております。

日々の授業こそ、君たちにとっての『自立』の第一歩であること。忘れないでください。

さて、みなさんは、サクラの語源をご存知でしょうか。諸説あるようですが・・・そのうちの一つです。サクラの「サ」は稲穂の神とされ、「クラ」は神の座る場所、「磐座（イワクラ）」だそうです。暦のなかった古代、人々は田畑に連なる丘の中腹にある樹木を植えました。春、この樹木が花を咲かせたのを頃合いとみて、豊作を願い、田植えの準備を始めたのではないのでしょうか。ですから、花見とは大変重要なことだったのです。稲作の神が宿る場所、そこに植えられた樹木が「桜」であったというわけです。また、大泉とは井頭池を源流とする小井戸川（おいどがわ）、現在の白子川の流れる地域を指すそうです。すなわち、大泉桜とは大泉の地を見下ろす高台の神宿る神聖な場であるということができます。

この学び舎で君たちは、一人ひとりが自らの個性を伸ばし、自らの主体的な学びと将来の目標に応じた自らのカリキュラムの中で三年間を過ごします。

開校時に『夢・ふくらむ』を合言葉とした本校は、生徒一人ひとりを手厚くサポートし、様々な『夢・彩る』ことができる学校として、発展の時を迎えています。三年後に君たち大泉ザクラが彩り鮮やかに様々な花を咲かせてくれることを大いに期待しています。

新入生の皆さん。およそ、入学式の意義は、先輩たちが、築いてくれた輝かしい伝統をしっかりと受け継ぎ、それをさらに発展させるよう、自らに誓いを立てることにあります。

その誓いは、自分自身に対しても、保護者の皆さんに対しても、また学校に対しても、「堅く」かつ「心から」なされなければなりません。

創立から本校の卒業生は、すでに二千名を超えており、先輩方は、様々な分野で活躍されています。君たちは、このような先輩方に引き続き、さらなる伝統を創造していく一人となります。一人ひとりの個性を大切にする本校で学んでいくことに胸を張り、これからの学校生活を歩んでください。

結びに、保護者の皆様と私たち教職員は、本日より、新入生の皆さんを「導き、育む」という同じ目標に取り組むことになりました。共に育てることの基本は、学校と家庭の相互の理解と信頼にあると考えます。私たち教職員は、力を尽くし、一人一人を大切に、きめ細かく指導して参ります。そして、皆様の期待に応える学校づくりに努めて参ります。保護者の皆様におかれましても、本校の教育活動に対するご理解とご協力を賜りますよう、改めてお願い申し上げます、式辞といたします。

平成三十一年四月九日

東京都立大泉桜高等学校長

亀崎隆彦